

ご あ い さ つ

京都府高等学校体育連盟
両丹支部長 福井真介
(京都府立綾部高等学校長)

平成28年度の年度末を迎え、この1年のまとめに合わせて両丹支部の事務局をお預かりした2年間を振り返る時期となりました。全てにおいて手探りの状態で支部長をお引き受けしましたが、昨年度の渡邊孝会長、今年度の大溝誠則会長をはじめ、本部事務局の皆様方から多くの御理解と御支援をいただき、何とか乗り越えることができました。

今年も両丹支部に所属する高等学校からは、3000名を超える卒業生の皆さんが母校を巣立っていかれ、一人一人が次の目標に向かって大きく羽を広げておられることと思います。高体連の活動は生徒の皆さんのやる気があってこそ生まれるものですので、改めて卒業生の皆さんに感謝するとともに今後の御活躍に期待したいと思います。

また、各学校の部活動顧問として日夜熱心に指導していただいている先生方、その上に各専門部の委員として競技運営、普及・強化、広報、財務等で献身的に取り組んでいただいている方々に心からお礼を申し上げます。

さて、両丹支部としての事業は、5月の両丹高等学校総合体育大会からスタートしますが、今年度は2年ぶりに総合開会式を西舞鶴高校グラウンド（陸上競技会場）で行うことができました。快晴の下、京都府教育庁指導部保健体育課長角井弘之様、京都府高等学校体育連盟理事長村上昌司様を御来賓としてお迎えし、西舞鶴高校吹奏楽部、放送部に協力していただき、地域社会の皆様の御参観の中、素晴らしい式となりました。9月には両丹高等学校定時制通信制総合体育大会が宮津市で、10月には両丹高等学校駅伝競走大会が海洋高校周辺道路で実施されました。全ての大会においてほぼ天候にも恵まれ、大きな事故やトラブル等なく終了することができました。これもひとえに先生方お一人お一人が役割をきちんと果たしていただいたからであると感謝しています。

また、一般生徒対象事業については、6月にプロ野球観戦を計画していただき、60名を超える生徒がプロフェッショナルに接し、それぞれ様々な思いを胸に刻んだことだと思います。担当の先生には大変お世話になりました。

このようなスポーツ環境の中で選手の皆さんも各専門種目において、素晴らしい成果を上げてくれました。国民体育大会（岩手県）カヌー競技少年女子WK-4(500m)で久美浜高校埋金・小西選手と綾部高校梅原・丸岡選手の合同チームが優勝、同じくウエイトリフティング少年男子94Kg級で海洋高校長谷選手が優勝、JOC杯全日本ジュニアレスリング選手権女子で網野高校植野選手が優勝、全日本選抜女子ウエイトリフティング選手権大会で海洋高校井崎選手が優勝、マドンナカップ IN 伊予市ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会で福知山成美高校出口・西選手が優勝するなど、両丹の選手に大きな感

動と夢、希望を与えてくれました。

定時制通信制においても、全国大会や近畿大会に延べ30名の選手が出場し、大いに活躍してくれました。中でも男子4×100メートルリレーで京都チームの5位に貢献した網野高校吉田選手と宮津高校川崎選手をはじめ、陸上競技4種目で入賞を果たしました。皆さんの頑張りに拍手を送りたいと思います。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの準備が、様々に議論されながら進められていますが、さて、この両丹高体連の中で育った皆さんがどのような形で関わってくれるのでしょうか。選手として、サポーターとして、ボランティアとしてなど多様な参加方法があると思いますが、一人でも多くの皆さんが高い関心を持っていただくことを期待しています。そのためにも、両丹のスポーツ界をますます盛り上げていくことが強く求められています。

2年間事務局をお預かりしましたが、多くの課題を積み残したままであることについては誠に申し訳なく思っております。中でも、生徒数の減少が、予想以上にいたる所に影響を及ぼすことが考えられますので、事務局を中心に全ての先生方の英知を結集して対応策を立てていただきたく思います。

結びに、今後とも京都府高体連両丹支部の取組について、多くの皆様から御理解と御支援をいただけますよう、お願いいたしまして、御挨拶とさせていただきます。